



# あいむら先生の ニカラグアレポート

青年海外協力隊で中米のニカラグアに行っています。



第二十三号

2009年 10月 2日発行

## たんじょう日とおそう式



赤ちゃんをだかせて  
もらいました。  
自分の子どもでは  
ありません… (笑)

まずは、子どものたんじょう。きほんてきに、日本と同じく病院でうみますが、うんだ次の日には家に帰ってきます。だから、生まれてすぐの赤ちゃんが見られるんですよ。赤ちゃんのためにはよくないのかもしれませんが・・・。  
ニカラグアでは子どもがたくさん。3人きょうだいなんて当たり前。10人以上の子どもがいる家族もたくさんあります。だから、親が見られない分、きょうだいでもんどうをみあうんですよ。



子どものたんじょう日には「ピニャータ」とよばれる人形がよいいされます。この中にはたくさんのおかしが入っていて、これを写真のようにぼうでじゅんばんにたたいていきます。(ざんこくだ!!とは思わずに。)こわれるとたくさんのおかしがおちて、わあーっ取り合いになります。その後はあまったるーいケーキを食べて、プレゼントをあげておわりです。ここでも、たんじょう日はとくべつですね。

人がなくなると、  
教会でミサをします。

みんなでひつぎ  
をうめます。

ひつぎの上から土を  
かけて見えなくします。



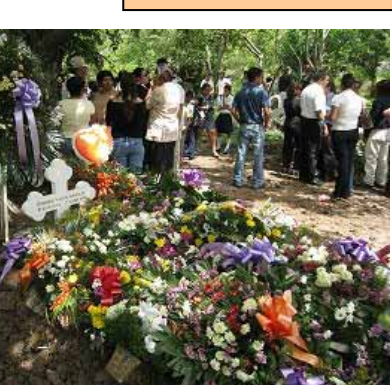
おはかにひつぎを  
かついで行きます。



ひつぎには、なくなった  
人がそのまま入っています。



さいごに花をそえて  
おしまいです。



キリスト教の国なので、おそう式のやり方がちがいます。おどろいたことはなくなった身体をそのままひつぎにいれるところ。ニカラグアにも1年に1度、なくなった人の日があり、その日に家族がおはかをおとずれます。